

季節の科学トピックス

サクラの花が美しい秘密



PROFILE

田中 修 たなか おさむ (甲南大学特別客員教授)

1947年、京都府生まれ、京都大学農学部卒業、同大学院博士課程修了。

スミソニアン研究所(アメリカ)博士研究員、甲南大学理工学部教授を経て、現職。

著書は、「植物学『超』入門」(ソフトバンク・アイ新書)、「植物はすごい」「植物はすごい 七不思議篇」「都会の花と木」「雑草のはなし」「不思議の植物学」(以上、中公新書)、「植物のあっぱれな生き方」(幻冬舎新書)、「フルーツひとつばなし」(講談社現代新書)など。



満開のサクラの花は、まぶしいほど美しいものです。 「なぜ、そんなに美しいのか」と不思議がられます。寒い冬が過ぎて、暖かい春が訪れ、私たちの心は明るくなっています。その気持ちの高揚が一因かもしれません。でも、それだけではありません。

満開のサクラの花が“美しい”理由は、3つの性質で説明できます。1つ目は、葉が出るより先に、花が咲き誇ることです。花が咲くより前に葉が出る品種はありますが、満開のサクラが美しく感じられる大きな一因は、葉がないのに花が咲くため、花の美しさが葉に隠れずに目立つことです。

2つ目は、花がいっせいに咲くことです。一株に咲く花はもちろんですが、同じ場所や地域で、すべての株がほとんど同時にいっせいに開花します。それぞれの株がバラバラに花を咲かせるより、美しさはきわだちます。

3つ目は、咲く花の個数です。これは、中途半端な数ではありません。一度数えてみてください。少し大きめの一本の木に咲いている花の個数が十万個を超えることは、めずらしくありません。ほぼ同じ大きさのウメの木に咲く花の個数とは、大きな差があります。ウメでは、

一つの芽から一つの花が咲きます。それに対し、サクラの花が咲くときには、一つの芽からふつうには3~5本の柄が伸びだし、それぞれの柄の先に花が咲きます。

これらの3つの性質が相まって、満開のサクラの美しさは演出されているのです。これだけで納得できそうですが、サクラの美しさの秘密は、これだけではないのです。

サクラは、私たちが“見返り”を求めるることのない花です。サクラの花には、ウメやモモのように実がならないので、果実は期待されません。また、「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」といわれるよう枝を切ると切り口から病気になりやすいので、ほとんど切り枝が飾られることはありません。そして、「世の中は三日見ぬ間の桜かな」と詠われるよう花の寿命が短いことが知られているので、花が長い期間咲くことは期待されません。

このように、サクラの花を愛する心には、“見返り”を求める気持ちはありません。それゆえ、サクラの花を見つめるときには、ひとえに美しさのみを求めています。ですから、ひときわ美しいのかもしれません。何の“見返り”も求めずに愛する花、それがサクラの花であり、サクラの花の美しさの秘密になっているのでしょうか。